



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047-767-5030 植田 進 ☎047-487-9754

伊原 忠 ☎047-488-7207 飯川英樹 ☎080-1239-8132

ホームページへ▶



市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>

共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp

第512号

2021年7月12日

発行

日本共産党

八千代市議会議員団

八千代市大和田新田

312-5

「生理の貧困」根絶へ積極的な取り組みを

コロナ禍のなか、「生理の貧困」が深刻な問題として叫ばれ、6月議会で日本共産党は、女性の負担軽減として「生理の貧困」を取り上げました。

今、全国各地で「小中学校」「公共施設」などで、生理用品の無償配布が行われています。多くの自治体では、緊急的な措置として「災害用備蓄の生理用品」を活用して無償配布を始めています。八千代市でも同様のやり方で生理用品の無償配布ができるものと思っていたのですが、八千代市は8年間も放置していたため、使用期限切れで、5万6千個が廃棄処分となりました。無償配布どころか、備蓄もされていません。

議会では、生理用品、介護や赤ちゃんのおむつなども含めて定期的な点検を行うとともに、新たに予算を設けて災害備蓄品の補充と「小中学校」「公共施設」に生理用品の無償配布ができるように要望しました。



誰もが安心して利用できるようトイレに置くべき

現在、八千代市の小中学校では「保健室にて配布している。生理用品は十分に準備できている」とありました。

しかし、「言い出しにくい子」や「家庭の状況を探られたくない子もいる」ので、トイレでの無償配布を強く求めました。後日、ある中学生からは「毎月だと言いにくくなる」との声が届きました。

福祉総合相談窓口では、相談がきた際には生理用品の配布をしていきたいとの答弁がありましたが、多くの方は生活相談が主で、ご自身のことについては後回しにしているため、相談では言いにくいことから、公共施設のトイレにて無償配布を行うことが必要です。

職員からの寄付ではなく、きちんと予算化すべき

八千代市では、生理用品購入の予算化はされていません。相談者に配布するのは職員からの寄付に頼っています。これでは行政の責任放棄ではないでしょうか。

京都市では5月の市議会で、小・中・高・支援学校に生理用品の無償提供をはじめ、女性、保護者、生徒への支援事業を具体化し、2,700万円の予算化を計上しました。内訳は、国が拡充した「地域女性活躍推進交付金」から1,025万円と昨年の「地域創生臨時交付金（第3次補正分）」から1,575万円と合わせて2,700万円を市の独自財源なしで予算化しています。

八千代市でできないわけはありません。職員の寄付に頼るのではなく、事業計画をしっかりとたてて予算化していくべきと強く求めていきます。